

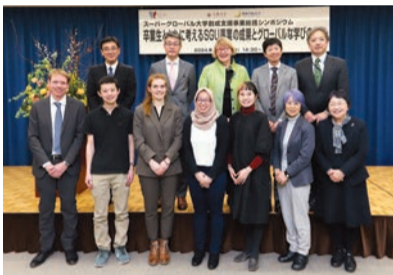
スーパーグローバル大学創成支援事業総括シンポジウム

卒業生とともに考えるSGU事業の成果とグローバルな学びの未来

卒業生とともに学びの未来を語り合う



シンポジウム登壇者で記念撮影



1月17日、2号館国際会議場で、本学と関西学院大学の共催によるシンポジウム「卒業生とともに考えるSGU事業の成果とグローバルな学びの未来」を開催した。

平成26年度に文部科学省スーパーグローバル大学創成支援（SGU）事業のタイプB（グローバル化牽引型）に採択された両校は、10年間にわたる大学改革と教育の国際化の推進に取り組んできた。今年SGU事業が最終年度を迎え、その総括として本シンポジウムを

開催し、国内外より約200人が対面とオンラインで参加した。両校からグッドプラクティスの報告や、本事業の取組みを通じて学んだ卒業生と国際教育分野の有識者を交え、未来に向けたグローバルな学びの方向性について活発な議論を行った。

シンポジウムは、暁道佳明学長のヒド才挨拶、文部科学省高等教育局参事官（国際担当）の小林洋介氏の来賓挨拶で始まり、杉村美紀総長、合人副学長、国際連携担当のHenning氏、卒業生か

成田静香氏から、SGU事業のグッドプラクティスの紹介があった。続いて両校の卒業生が、自身の視点や姿勢を交えて学んだ卒業生と国際教育分野の有識者を交えて、未来に向けたグローバルな学びの方向性について活発な議論を行った。

最後に森学長が閉会挨拶に立ち、明治から令和の時代を経て高等教育において重要な役割を果たしてきた両校は、今後も国内外で活躍する同窓生の皆さんを後押ししていきたいと述べて、シンポジウムを締めくくった。

令和6年能登半島地震により被災された皆様へ、心よりお見舞い申し上げます。また、被災された地域の日も早い復興をお祈りいたします。

上智大学では、学生または保証人の皆様が災害救助法適用地域において被災された場合、経済支援を行っております。また、各種相談も受け付けておりますのでご利用ください。詳細は本学ウェブサイトをご確認ください。

上智大学学長 暁道佳明

左から三井物産服部氏、大塚総務担当理事、LCE谷口氏

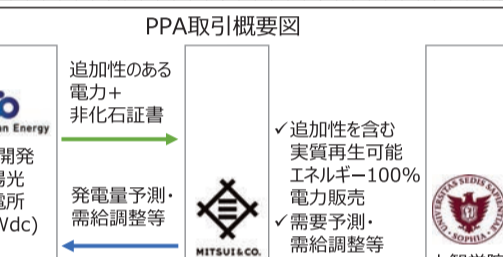


12月19日、上智学院は三井物産株式会社および株式会社レーベンクリート（LCE）とのトPPAを締結した。

2024年6月以降、LCE社が新設する太陽光発電所で発電された再生可能エネルギー電力を、三井物産が上智大学四谷キャンパスに供給する。

本学院では、本PPA締結以前、四谷キャンパスにて実質的に再生可能エネルギー電力を供給する。四谷キャンパスで執行された締結式には、大塚総務担当理事兼サステナビリティ推進部長（文学部英文学特別契約教授）、三井物産株式会社エネルギーソリューション本部カーボンリソリューション事業部長の服部浩介氏、LCE社代

表取締役谷口健太郎氏らが出席した。大塚総務担当理事は、「上智学院ではサステナブルな未来を指す教育・研究を行っているが、学生・教職員の生活の場でもあるキャンパスで、そうした未来の実現に向けた先進的取り組みを三者協力のもと実践できること意義は大きい」と期待を寄せた。



本学院では、SGU達成に寄与する研究、教育、社会貢献を推進する契約。オフサイトPPAとは、遠隔地の発電所から一般の送配電ネットワークを介して電力を調達する形態。また、デジタルPPAとは、発電事業者の電力と環境価値をセットで需要家に供給する形態を指す。

1月5日、2024年上智学院年頭式典が対面とオンラインで開催された。式典にはオンラインを含めて教職員約730人が出席した。

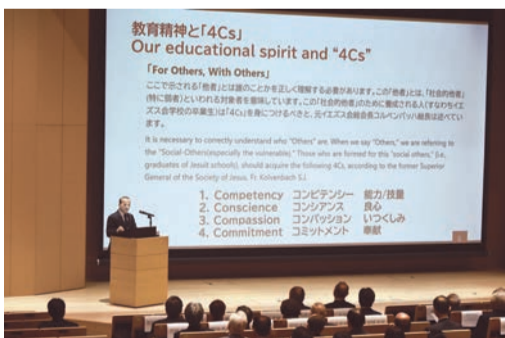
2024年上智学院年頭式典

「グランド・レイアウト3.0」に基づく新たな挑戦を誓う

挨拶に立ったサリ・アガスティン理事長は、新年早々に発生した能登半島地震や航空機事故に触れ、被災者にお見舞いの言葉を述べた。また、世界中で戦禍の最中にある人々の平和と安全を願った後、23年から開始した新たな中長期計画「グランド・レイアウト3.0」について述べた。

この中長期計画は、学院の各設置校がさらなる発展を遂げるための道標であり、イエズス会教育機関として「教育」をいかに展開していくかが重要な課題だと強調した。また、長年にわたるソ

生かし、社会に発信していくかを考えることが必要だと述べた。同様に、本学を取り巻く環境も激変しており、私たちは変えるべきものと変えざるべきものとの識別が求められていると説明。価値を創出し、変えるべきでないものはさらに質を高める、それが「グランド・レイアウト3.0」に謳うSophia Qualityの追求に重要な視点だと強調した。



アガスティン理事長が学院の新たな挑戦を示した

この時代にどう

の伝統と強みを

最後に、学院の設置校を代表して暁道佳明学長が登壇した。暁道学長は、社会の変容や変革のスピードが速いという様相はさらに加速しているが、本学の伝統と強みを

年頭式典は、職員有志4人のバイオリン、ピアノ、チェロの伴奏による校歌斉唱で閉会した。4時限終了後の夕方5時30分からは、学生食堂で対面の賀詞交歓会が行われ、多くの教職員が親睦を深めた。

